

令和2年7月2日

お客様各位

株式会社グリーンウェル

東京都千代田区神田紺屋町14

千代田寿ビル501

代表取締役 水野 昇

## 次亜塩素酸水に関する各省庁発表に対する弊社見解

日頃より弊社の「微酸性次亜塩素酸水溶液生成ジアグリーンシステム」をご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。

令和2年6月26日に経済産業省及び NITE から「新型コロナウイルスに『次亜塩素酸水』は有効である」と発表がありました。弊社としましては大変喜ばしい発表でした。新型コロナウイルスのみならず、様々なウイルス・菌から身を守るお手伝いをさせていただきます。

### 2-1. 代替消毒候補物資の選定

十分な製品の供給が可能であり、新型コロナウイルスに有効な可能性がある、「界面活性剤（台所用洗剤など）」、「次亜塩素酸水（電解型／非電解型）」、「第4級アンモニウム塩」、「過炭酸ナトリウム」を代替消毒候補物資として選定し、検証試験を行うこととした。なお、上記候補物資に対する新型コロナウイルスへの消毒方法の評価に関する文献情報は調査時点では見当たらなかった。このため、新型コロナウイルスと同様のRNA型エンベロープウイルスである他のコロナウイルス（SARSコロナウイルス等）やインフルエンザウイルスに対する抗ウイルス効果に関する文献情報（別添5:参考文献1～16）をもとに、新型コロナウイルスに対する効果を類推した。

		供給力	抗ウイルス効果	利用対象	検証試験の必要性
①	加熱（熱水）	◎ 豊富	◎ 有効	食品、物品	政府で既に推奨されており、検証不要
②	アルコール消毒液（70%以上）	△ 品薄	◎ 有効	手指、(食品)、物品	政府で既に推奨されており、検証不要
③	塩素系漂白剤 (次亜塩素酸ナトリウム)	○ 需要増	◎ 有効	物品	政府で既に推奨されており、検証不要
④	界面活性剤 (住宅・家具用洗剤など)	◎ 豊富	○ 有効である可能性	(食品)、物品	優先的に検証
⑤	次亜塩素酸水 (電解型／非電解型)	○ 供給可	○ 有効である可能性	(手指)、食品、物品	優先的に検証
⑥	第4級アンモニウム塩	○ 需要増	○ 有効である可能性	(手指)、物品	優先的に検証
⑦	過炭酸ナトリウム	○ 供給可	○ 有効である可能性	物品(医療用)	優先的に検証

過酸化水素、過酢酸、ヨウ素系消毒液も候補となったが、主に医療用のため検証しないこととなった。これ以外にも、推薦されたものの検証対象にできなかった物品が多数あるが、これは主に一般家庭への供給力の制約からであり、新型コロナウイルスへの効果が期待できないという意味ではない。

(出典) 各種資料を参考に事務局作成 注) 供給力は令和2年4月中旬現在

弊社ジアグリーンは非電解型です。Phは6.5、有効塩素濃度100ppmです。NITE発表の数値範囲です。ご安心の上ご使用下さい。

## 経産省・厚労省・消費者庁合同発表

「次亜塩素酸水の空間噴霧は**お勧めしていません**」

【参考情報3 「次亜塩素酸水」の空間噴霧について】

「次亜塩素酸水」の空間噴霧で、付着ウイルスや空気中の浮遊ウイルスを除去できるかは、メーカー等が工夫を凝らして試験をしていますが、国際的に評価方法は確立されていません。

安全面については、メーカーにおいて一定の動物実験などが行われているようです。ただ、消毒効果を有する濃度の次亜塩素酸水を吸いこむことは、推奨できません。空間噴霧は無人の時間帯に行うなど、人が吸入しないような注意が必要です。

なお、ウイルスを無毒化することを効能・効果として明示とする場合、医薬品・医薬部外品の承認が必要です。現時点で、「空間噴霧用の消毒薬」として承認が得られた次亜塩素酸水はありません。

今回の三省合同発表は「次亜塩素酸水の空間噴霧は**推奨しない**」「次亜塩素酸ナトリウムの噴霧は**絶対しては行けない**」と発表しております。厚労省に確認しました、次亜塩素酸水噴霧に関しては、試験をしていないとの事です。また、NITEは空間噴霧に関しては一切触れておりません。次亜塩素酸水噴霧による検査は行っていないとの事です。

次亜塩素酸水はメーカーによって塩素濃度・pH値・製造方法・製造経過日数の違いがあるので、個々の判断基準が困難である。有害無害の判定が難しい為、空間噴霧は推奨しないとの表現となっているようです。

弊社ジアグリーンは専門機関による経口毒性試験に合格しております。オリジナル噴霧器約5000台、タブレット200万錠の実績を有しております。過去において、健康被害は出ておりません。しかし、吸入毒性試験は現在申請手続き中です。試験結果が出ましたらすぐご案内致します。その間、ご心配の場合は人がいない時に噴霧して下さい。

この見解書によって、お客様のご心配、ご不安が少しでも緩和されることを願っております。また、今回のような発表、報道に際しては、ご指摘事項、課題点について真摯に受け止め、継続的な改善に取り組んでまいりますので、引き続きご愛顧を賜りたくお願い申し上げます。

以上